

第97回薬剤師国家試験 総評

科目		出題数	各分野所感	旧制度（240問）との大きな相違点	難易度 ★：低 ★★：中 ★★★：高	
1日目午前	必須問題	90	難易度は低く、基本的な知識を問う問題ばかりである。 ・五肢択一とあったが、四肢、六肢の問題も見受けられた。 ・「薬剤」は定義を問う問題が多い。 ・「実務」は現場での知識を問う問題が多くみられる。また、OTCの販売等、法規の範囲からの出題もあった。 ・「薬理」は作用機序よりも薬物名を選ばせる問題が多い。 ・「治療」は医薬品情報に関する設問が増えている。		★	
1日目午後①	一般問題試験 薬学理論問題	物理	従来出題されている範囲（クロマトグラフィ（問97）、電気泳動（問98）、蛍光光度法（問99）など）とともに、新傾向（右参照）の問題もみられた。	分析法のバリデーション（問96）や生体分子（問100）など新ガイドラインで初めて追加になった範囲からの出題がみられた。	★★	
		化学	立体化学からの出題が多い反面、有機反応に関する出題が少なく、出題範囲に偏りがみられる。難易度はやや高い。	有機反応に関する問題が減少し、局方に関連する問題が増えた。また、例年出題されていたMSスペクトルが出題されていない。	★★	
		生物	基礎的な内容を問う問題であった。過去問題の再出題はないものの、基本的な知識があれば比較的容易に解答できる。	生物10題のうち2題が免疫で、必須、理論、実践を併せると免疫の占める割合が増えている。	★★	
		衛生	食品衛生法、化審法、PRTR法など法律の問題が多く見受けられ、基礎的事項の理解に加え、思考力、応用力が求められる内容である。一つ一つの事項について、以前よりも問われることが深くなっているが、確かな事項を把握していれば解答を導くことは可能である。一方、問題文の情報を正確に読み取らなければ、誤った解答に誘導される問題が多い。	過去問題再出題はなく、構造関連の問題も2題と以前よりも少ない。	★★	
		法規・制度・倫理	問題の半数は過去問題演習の徹底で十分対応できるものであった。また、新ガイドラインで追加された範囲（社会保障、薬剤経済分析、倫理）からの出題も多くみられた。	旧国家試験では、薬事法の出題が多かったが、新国家試験では薬事法の出題が減り、医療法や倫理からの出題が増えている。	★★	
1日目午後②	薬理	15	基本的な内容を問う問題が多い。新出題の薬物も1題のみで満点を取ることができる内容であった。	例年通り定番的な内容であった。選択肢で若干難易度が下がっている。	★	
	薬剤	15	薬物動態学（8題）、物理薬剤学（3題）、製剤学（4題）。新しい切り口の問題が多かったが、全体的には過去問題の理解が徹底できていれば十分対応できる。等張化計算は、食塩価を算出してから計算しなければならぬという新規問題が出題された。	薬物動態学では、必ずADMEが出題されていたが、排泄が出題されていない。過去問より易しい問題が増えた印象を受けた。基本的な事項を確実に押さえることで、より高得点が期待できると思われる。	★	
	病態・薬物治療	15	基礎的な内容を問う問題が多い。容易に解答にたどりつける。また、3題が過去問題の再出題であり、例年と比較すると過去問題の割合が多い。	疫学に関する問題が2題あり、旧国試の実務で出題されていたものとは傾向が異なる問題であった。多発性骨髄腫が新しく出題されている。	★	
2日目午前	一般問題試験 薬学実践問題	物理＋【実務】	10	難易度に高低差のある出題であった。全体的に例年通りのレベルではあるが、新規問題で難易度が高く感じられたと思われる。薬剤情報提供文書の内容を深く知っていないと解けないものもあった。今後このような問題が増えると考えられる。		★★★★
		化学＋【実務】	10	一般的な有機反応に関する複合問題はほとんど無く、医薬品の性質に関する問題が多くみられた。また、実務の問題は薬理学や薬物治療に偏った問題であった。有機反応に関する問題が大幅に減少し、医薬品の構造に関連する問題が増加した。		★★
		生物＋【実務】	10	過去問レベルの基礎的な内容と新記述の内容がバランスよく出題されていた。問題形式は、キーワードに関連させた連問となつてはいるが、各問題単独で導き出せる問題が多かった。免疫学的測定法も含めて全体として免疫学の問題が増加している。		★★
		衛生＋【実務】	20	実務の内容も含め、全体的に基礎的な内容を問うものが多い。健康分野では、喫煙、高血圧など生活に関連した常識的な内容の出題で、環境分野では、水質検査の試験法、シックハウス、換気など実地的な問題が多く、これも難易度としては高くはない。代謝、毒性学は理論問題も含め、出題がほとんどなかった。		★

第97回薬剤師国家試験 総評

科目		出題数	各分野所感	旧制度（240問）との大きな相違点	難易度 ★：低 ★★：中 ★★★：高
2日目午後①	薬理+【実務】	20	全体的に基礎的な内容が多い。薬理機序が分かった上で、実務問題を導きだすような問題で、流れもよく複合問題としてよく考えられた問題が多かった。五肢択一の問題も多くみられ、選択肢の難易度は下がった。		★
	薬剤+【実務】	20	基本的な事項を理解すれば高得点が取れたと思われる。全体としては難易度は「低い」。また、処方から投与量を計算して出す問題がやや新しいが、公式が分かれば、確実に解答できると考えられる。実務領域では、TDMが関係する問題が数題あり、旧国試と類似している形式であったため、解答は比較的容易であったと思われる。		★
2日目午後②	一般問題試験 病態・薬物治療+【実務】	20	薬物相互作用を問う問題が多い。また、症例や処方から病態を読み取る力が要求される問題であった。多くは基礎的な知識を問うものであった。統計や疫学研究に関する問題が増加している。		★★
	薬学実践問題 法規・制度・倫理+【実務】	20	難易度は「標準」。特に一般用医薬品の販売及び情報提供と保険制度に関する出題が多い。一般用医薬品に関する業務は薬剤師に求められる知識であり、今後もこの傾向は続くと考えられる。さらに、例年に比べ薬局製剤に関する出題が多くみられた。また、近年の傾向であるが実務の問題で法規の知識が問われる問題も数題出題されている。旧国家試験で毎年出題されていた調剤報酬に関する問題がなかった。しかし調剤報酬に関する知識は薬剤師に必要なものであるため、今後出題されると思われる。		★★
	実務+【実務】	20	単に実務の知識を問うだけでなく、薬理・薬物治療・薬物動態及び法規の知識を総合的に活用して解く問題が増加した。これらの分野を幅広く勉強し、現場の知識を蓄えなければ解答は難しい。薬剤師として現場でどう行動すべきかを考えさせる問題が中心だった。特に、保険調剤に関する問題が目立ったため、いかに実務実習で経験を積み、自分の知識にできるかが今後は重要となるだろう。		★
合計	(題)	345			

全体分析と今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に難易度は「低い」。従来の国家試験過去問題を基に、基礎的な事項を理解していれば、十分得点できる問題が多かった。 ・必須問題は、各分野における用語の定義の出題が多く、基本的事項を問うものばかりである。 ・薬学一般問題（理論問題）は、従来の国家試験過去問題に類似したレベルの設問が中心であった。また、新ガイドラインで追加になった分野からの出題も多く見受けられた。 ・薬学実践問題（複合問題）は、設問文そのものは変えているが、題材・設問の流れは事前に発表されていたモデル問題とほぼ同じであるものが多い。その例を以下に挙げる。 問208-209 脂質異常症のスタチン系とコレステロール合成反応 問210-211 パーキンソン病とレボドパ（アミノ酸） 問224-225 アンピシリンとディフィシル菌 問226-227 酵素に含まれる微量元素 問270-271 バンコマイシン 問272-273 てんかんのフェニトイン 問274-275 シゴキシンの計算問題（全身クリアランス） ※例題ではテオフィリンで計算。シゴキシンは薬物動態分野の別問題で出題。 ・局方第十六改正による新たな薬剤の出題はなかった。 ・今後国家試験は難化することが予想される。各分野、事項を一つ一つ丁寧に理解する学習が重要である。また、それぞれの知識をリンクさせ、横につなげることを考え勉強すべきである。すべての事象に興味を持ち、その知識がどのように現場で活用できるのか常に考えながら取り組むこと意識を持って欲しい。
------------	---